

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大学名	創価大学
整理番号	B20
構想名	人間教育の世界的拠点の構築 -平和と持続可能な繁栄を先導する「世界市民」教育プログラム-

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

(総括評価) A	十分な取組状況で事業目的が達成され、今後も持続的な発展が期待できる。
<p>(コメント)</p> <p>本構想は事業期間全体において、従前の「グローバル人材育成推進事業」で展開したものを発展させた4つの取組み（グローバル・モビリティ、グローバル・ラーニング、グローバル・アドミニストレーション、グローバル・コア）を柱として、さらなる国際化推進強化が進められたものとなっている。加えて、建学の精神に基づき「創造的人間」の育成のため、国際教育を主軸として据え、新たな活動を多岐に実施したことは評価に値する。</p> <p>事業展開では、構想実現のために設置した「グローバル・コア・センター」を中心に、海外交流校の拡大や、各地域・言語圏別に具体的な留学ポリシーが検討され、その評価方法も適切なものを採用することで、教育の質を保ちながらコースの拡充を行ったこと、さらにはアフリカ等を含む広範な地域で交流を維持遂行しており、学生の国際通用性が高まっている。留学生受入れについても、海外拠点や混住型宿舎の整備、交流大学の拡充や奨学金制度など、海外学生をリクルートするシステムが戦略的に機能し、多様な学生が集まっている。これらの尽力により、海外交流校の数において、目標を大きく上回っただろう。</p> <p>大学の教育国際化を推し進める上で必要な人への投資についても、外国人教員などの採用だけでなく、教員の海外大学への派遣による講義実習や、国内での様々な英語授業研修が充実しており、教員の国際通用性を高めている。</p> <p>一方で、日本人学生層のグローバル人材としての成長を底上げする側面においては、今後もさらなる努力が必要である。例えば、日本人学生のほぼ全員が海外研修を経験しているという実績があるにも関わらず、基準を満たす外国語力を身につけている学生数の実績が減少している点は懸念される。さらには、海外ボランティアやインターンの参加者がいづれも目標に達していないため、ポストコロナとして、対策が必要であろう。大学の国際化には学生の主体的な参加が必須であると思われるが、どのようにすれば貴学が提供する多様な素晴らしい機会に対し、学生たちが主体的・積極的に関わり、活用するようになるか、さらなる検討と対策に取り組んでいただきたい。</p> <p>最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。</p>	